

終末を生きる

シリーズ～終末を生きる～

2018年元旦礼拝

ペトロの手紙第一4章7～11節

万物の終わりが迫っています。だから、思慮深くふるまい、身を慎んで、よく祈りなさい。何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです。不平を言わずにもてなし合いなさい。あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。語る者は、神の言葉を語るにふさわしく語りなさい。奉仕をする人は、神がお与えになった力に応じて奉仕しなさい。それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して、神が栄光をお受けになるためです。栄光と力とが、世々限りなく神にありますように、アーメン。

万物の終わりが迫っている

- ❁ この世界を造り始められた神が、この世界を終わらせられる
 - ❁ 「始め」と「終わり」: 朝と夜・生と死
- ❁ キリストによって贖罪が完成したことによって、「終わりの時代」が始まった
 - ❁ すべての人に救いのチャンスが備えられた
- ❁ 「終末」はこの世界における神の最後の恵みである
 - ❁ 人間が破壊し尽くす前に神が終わりを与えられる

終わりは迫っているけれども

❁ 平常心を保つ

- ❁ 「思慮深くふるまい」: 正気である・冷静である
- ❁ 「身を慎む」: しらふでいる(酔っぱらっていない)
- ❁ 終わりが迫っているからといって、あわてふためいたり、なげやりになったりせず、祈りに集中する

❁ 心を込めて愛し合う

- ❁ 「愛し合う」こと以上に大切なことはない
- ❁ 「心を込めて」: 熱心に、全力を注いで
- ❁ 「愛は多くの罪を覆う」: 罪は愛に勝てない

賜物の管理者として

- ❁ すべては神からの賜物である
 - ❁ 自分で造り出したものは何もない
- ❁ 私たちは賜物の**管理者**である
 - ❁ 「神のさまざまな恵みの善い管理者として」
- ❁ 賜物を誰かのために生かす
 - ❁ 自分のためのものではない

賜物を生かして仕えあう

- ❁ 不平を言わずに互いにもてなし合う
 - ❁ 「もてなし(フィロクセノス)」:外国人に親切にする
 - ❁ めざそう「おもてなし教会」
 - ❁ 不平を言うぐらいならもてなさない方がよい!
- ❁ 神の言葉を語るにふさわしく語る
 - ❁ “まるで神が語られるように”語りなさい
 - ❁ 確信をもって御言葉を伝えよう!
- ❁ 神がお与えになった力に応じて奉仕する
 - ❁ 仕える力も神から賜ったもの
 - ❁ 出し惜しみせず奉仕しよう!

すべては神の栄光のために

- ❁ 賜物を生かして仕えあうとき、賜物を授けて下さった神がたたえられる
 - ❁ 自分が認められたり、褒められたり、称賛されるために生きているのではない!
- ❁ 万物の終わりが迫っていても、**私たちがなすべきことに変わりはない!**
 - ❁ 祈ること・愛し合うこと・もてなし合うこと・神の言葉を語ること・賜物を生かして仕えあうこと
 - ❁ 今日が最後になるかもしれないのだから一生懸命やろう!